

【プレゼンテーション資料】

2010年度第3四半期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2011年2月14日

ソニーフィナンシャルホールディングス
代表取締役 副社長 の 藤方 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、
当社グループの 2010年度 第3四半期 連結業績について
ご説明いたします。

本日は、私のほかに、

ソニー生命 取締役 小泉

ソニー損保 執行役員 丹羽

ソニー銀行 執行役員 鈴木

も同席しております。

ご説明のあと、皆さまからのご質問をお受けいたしますので、
どうぞよろしく願いいたします。

(それでは次のスライドをご覧ください)

- ✓ 連結業績(9カ月累計)は、前年同期比増収増益。
- ✓ 生命保険事業は、主力の死亡保障性商品、および生前給付保険や介護保険を中心とした第三分野商品の好調な販売により、安定成長を継続。
- ✓ 損害保険事業では、契約獲得が順調に推移。懸念された自動車保険の正味損害率の上昇傾向は、今年度上半期に比べ第3四半期は緩やかに。
- ✓ 銀行事業は、低金利下の厳しい経営環境の中、住宅ローンを中心とした貸出資産の順調な積み上がりにより、一定の資金利ざやを確保。

ここでは、9カ月累計の連結業績を踏まえた各事業の状況についてご説明いたします。

9カ月累計の連結業績は、前年同期に比べ増収増益となりました。

生命保険事業は、主力の死亡保障性商品、および生前給付保険や介護保険を中心とした第三分野商品の好調な販売により、安定成長を継続いたしました。

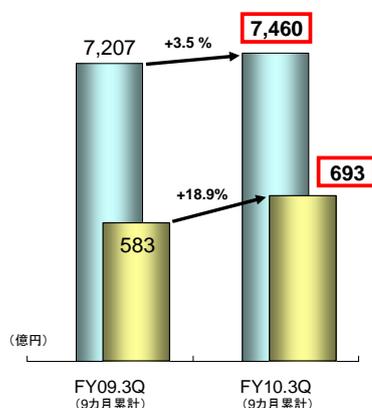
損害保険事業は、契約獲得が順調に推移し、懸念された自動車保険の正味損害率の上昇傾向は、今年度上半期に比べて第3四半期では緩やかになりました。

銀行事業は、低金利下の厳しい経営環境の中、住宅ローンを中心とした貸出資産の順調な積み上がりにより、一定の資金利ざやを確保いたしました。

(次のスライドをご覧ください)

連結業績ハイライト(1)

□ 経常収益 □ 経常利益



(億円)		FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	6,479	6,694	+214	+3.3%
	経常利益	548	653	+105	+19.2%
損害保険事業	経常収益	509	556	+46	+9.1%
	経常利益	18	23	+5	+28.0%
銀行事業	経常収益	229	224	▲5	▲2.4%
	経常利益	15	15	▲0	▲1.9%
消去又は全社	経常収益	▲11	▲14	▲2	+23.6%
	経常利益	0	1	+0	+47.6%
SFHG連結	経常収益	7,207	7,460	+253	+3.5%
	経常利益	583	693	+110	+18.9%
	四半期純利益	338	383	+45	+13.4%

(億円)		09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比	
SFHG 連結	総資産	58,043	60,010	64,359	+4,348	+7.2%
	純資産	2,610	2,694	3,011	+316	+11.8%

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

2

当社グループの連結経常収益は、
生命保険事業と損害保険事業で増加、銀行事業で減少した結果、
前年同期に比べ**3.5%**増加し、**7,460**億円となりました。

連結経常利益は、
生命保険事業と損害保険事業で増加、銀行事業でほぼ横ばいとなった結果、
前年同期に比べ**18.9%**増加し、**693**億円となりました。

以上の結果、純利益は、
前年同期に比べ**13.4%**増加し、**383**億円となりました。

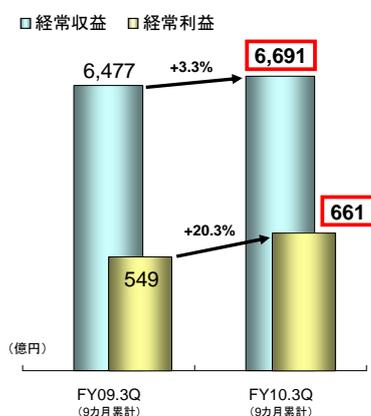
次のスライドには、各事業の業績要旨を記載しておりますので後ほどご覧ください。

続きまして、スライド4 から、各事業を担う3社の業績の詳細をご説明いたします。

連結業績ハイライト(2)

- 生命保険事業では、新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、一般勘定における利息及び配当金等収入や有価証券売却益が増加したことから、経常収益、経常利益ともに増加。
- 損害保険事業では、自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。自動車保険における事故発生率の増加にともない正味損害率が上昇したものの、その影響は異常危険準備金繰入額の減少により緩和され、経常収益の増加と事業費率の低下により経常利益は増加。
- 銀行事業では、外国為替売買益の減少などにより経常収益は減少。経常利益は、市場運用業務の損益改善などにより、業務粗利益が増加したものの、主にシステム関連費用を中心とした営業経費の増加などにより、減少。
- 連結経常収益は、前年同期比3.5%増加の7,460億円。連結経常利益は、前年同期比18.9%増加の693億円。四半期純利益は、前年同期比13.4%増加の383億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- ◆前年同期比 増収増益。
- ◆新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加。
- ◆資産運用収益は、利息及び配当金等収入や有価証券売却益が増加したものの、特別勘定資産運用損益が悪化したことから減少。
- ◆経常利益は、一般勘定における資産運用益の増加などにより、増加。

(億円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	前年同期比	
経常収益	6,477	6,691	+214	+3.3%
保険料等収入	5,121	5,655	+533	+10.4%
資産運用収益	1,302	947	▲355	▲27.3%
うち利息及び配当金等収入	509	644	+135	+26.6%
うち金銭の信託運用益	132	56	▲76	▲57.2%
うち有価証券売却益	145	245	+100	+68.8%
うち特別勘定資産運用益	503	—	▲503	▲100.0%
経常費用	5,927	6,030	+103	+1.7%
保険金等支払金	2,047	2,097	+49	+2.4%
責任準備金等繰入額	2,900	2,854	▲45	▲1.6%
資産運用費用	163	213	+50	+30.7%
うち有価証券売却損	80	8	▲72	▲89.7%
うち特別勘定資産運用損	—	131	+131	—
事業費	709	732	+22	+3.1%
経常利益	549	661	+111	+20.3%
四半期純利益	321	371	+49	+15.5%

(億円)	09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比	
有価証券残高	32,941	35,391	39,212	+3,821	+10.8%
責任準備金残高	38,807	39,856	42,567	+2,711	+6.8%
純資産額	1,842	1,913	2,226	+313	+16.4%
その他有価証券評価差額金	223	154	166	+12	+7.8%
総資産額	41,434	42,865	45,930	+3,064	+7.1%
特別勘定資産	3,518	3,736	3,817	+81	+2.2%

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

まず、ソニー生命の、単体業績のハイライトをご説明いたします。

ソニー生命の経常収益は、新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加し、前年同期に比べ**3.3%**増加し、**6,691**億円となりました。

保険料等収入は、前年同期に比べ**10.4%**増加し、**5,655**億円となりました。

資産運用収益は、利息及び配当金等収入や有価証券売却益が増加したものの、特別勘定資産で運用損益が悪化したことから、前年同期に比べ**27.3%**減少し、**947**億円となりました。

一方、資産運用費用は、特別勘定資産で運用損を計上したことにより、前年同期に比べ**30.7%**増加し、**213**億円となりました。

経常利益は、一般勘定における資産運用益の増加などにより、前年同期に比べ**20.3%**増加し、**661**億円となりました。

以上の結果、純利益は、前年同期に比べ**15.5%**増加し、**371**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命 主要業績指標(単体)



	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	増減率	
新契約高 (億円)	30,204	32,293	+6.9%	◆「家族収入保険」の販売が堅調に推移したことなどにより、増加。
解約・失効高	17,254	16,016	▲7.2%	
解約・失効率	5.31%	4.79%	▲0.52pt	
保有契約高	332,494	345,199	+3.8%	◆定期保険を中心に保険商品全般につき解約・失効率が低下。
新契約年換算保険料	506	539	+6.5%	
うち第三分野	122	126	+3.6%	◆生前給付保険、養老保険、介護保険などの販売好調により、増加。
保有契約年換算保険料	5,662	5,980	+5.6%	
うち第三分野	1,315	1,390	+5.7%	
	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	増減率	
資産運用損益(一般勘定)	634	864	+36.2%	◆利息及び配当金等収入の増加や、債券の入れ替えにともなう有価証券売却益により、増加。
基礎利益	451	439	▲2.5%	
逆ざや額	122	55	▲54.9%	◆保険料等収入および利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険の最低保証にかかる責任準備金が前年同期の戻入から繰入に転じたことなどにより、減少。
ソルベンシー・マージン比率	2,570.9%	2,637.3%	2,971.9%	

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含まない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

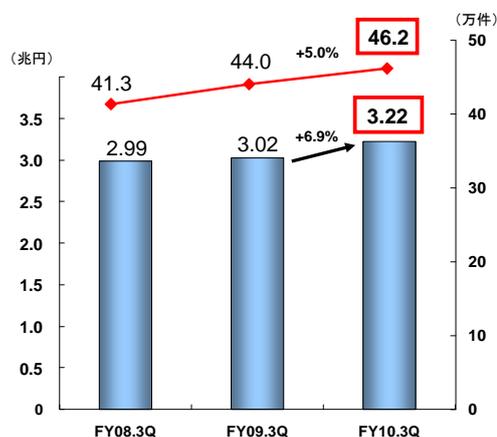
このスライドでは、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。

続きまして、次のスライドをご覧ください。

ソニー生命の業績(1)

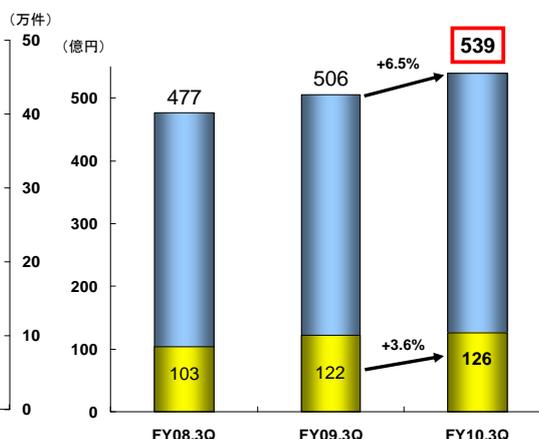
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険) ＜9カ月累計＞

■新契約高 ◆新契約件数



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険) ＜9カ月累計＞

■新契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険と個人年金保険を合計した新契約高は、前年同期に比べ**6.9%**増加し、**3兆2千2百億円**となりました。

2009年11月に発売した「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の販売が堅調に推移いたしました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ**5.0%**増加し、**46万2千件**となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、生前給付保険、養老保険、介護保険などの販売好調により、前年同期に比べ**6.5%**増加し、**539億円**となりました。

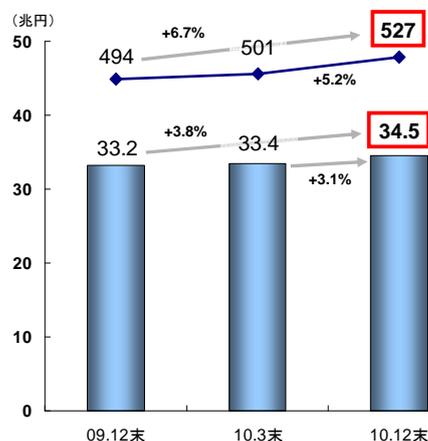
このうち、第三分野は、前年同期に比べ**3.6%**増加し、**126億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(2)

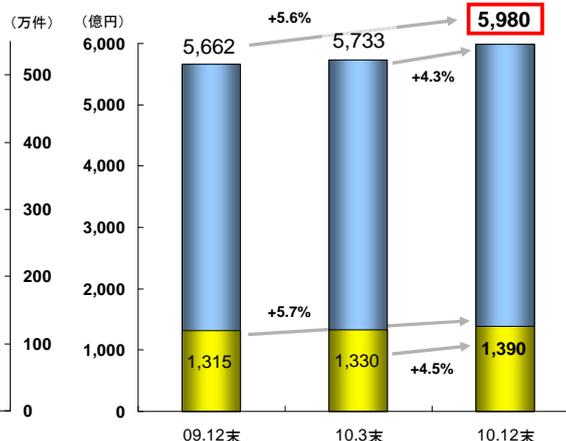
保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約高 ◆保有契約件数



保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険と個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、**2009年12月末に比べ3.8%増加、2010年3月末に比べ3.1%増加の34兆5千億円**となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、**2009年12月末に比べ6.7%増加、2010年3月末に比べ5.2%増加の、527万件**となりました。

(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、**2009年12月末に比べ5.6%増加、2010年3月末に比べ4.3%増加の、5,980億円**となりました。

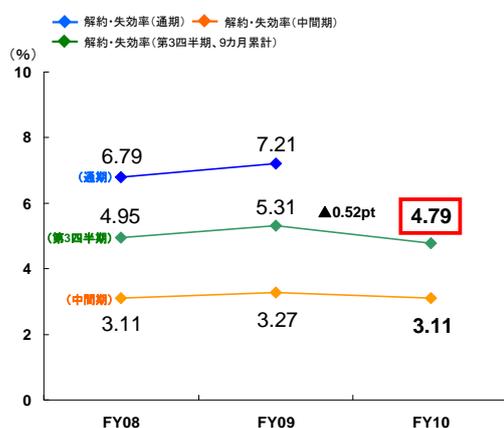
このうち、第三分野は、**2009年12月末に比べ5.7%増加、2010年3月末に比べ4.5%増加の、1,390億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

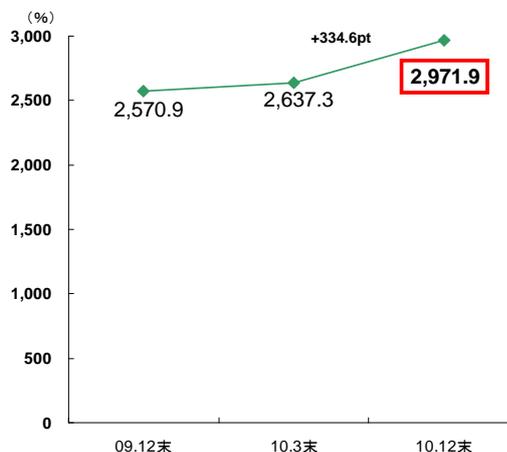
ソニー生命の業績(3)

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険) <通期・中間期・第3四半期(9カ月累計)>

*解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率



ソルベンシー・マージン比率



(左側のグラフ)

緑色で示しております今年度第3四半期9カ月累計の解約・失効率は、前年同期に比べ0.52ポイント低下し、4.79%となりました。

定期保険を中心に、保険商品全般につき解約・失効率が低下いたしました。

(右側のグラフ)

ソルベンシー・マージン比率は、2010年3月末に比べ334.6ポイント上昇し、2,971.9%となりました。

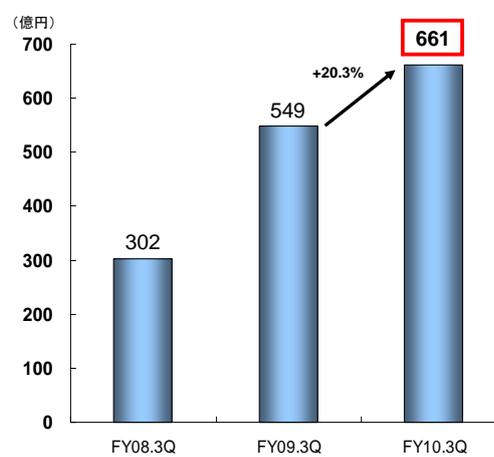
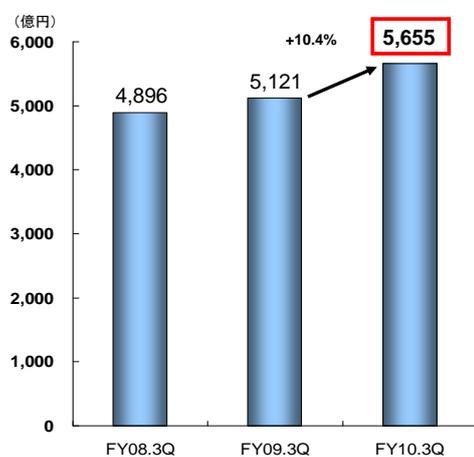
次のスライド9の、保険料等収入および経常利益につきましては、先のご説明のとおり、いずれも前年同期に比べて増加しております。

続きまして、スライド10をご覧ください。

ソニー生命の業績(4)

保険料等収入
<9カ月累計>

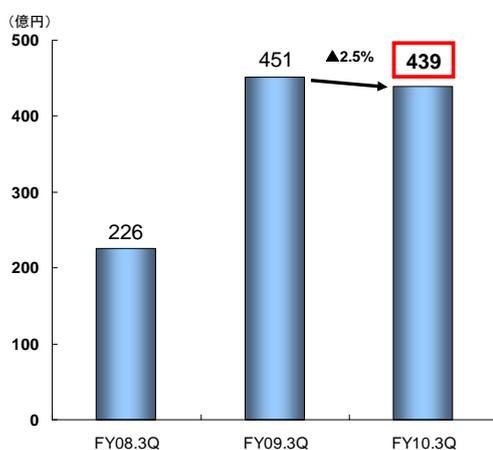
経常利益
<9カ月累計>



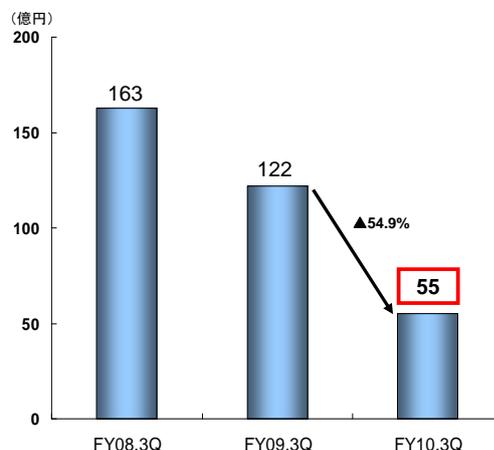
※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(5)

基礎利益 <9カ月累計>



逆ざや額 <9カ月累計>



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

基礎利益は、保険料等収入 および 利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険の最低保証にかかる責任準備金が前年同期の戻入から繰入に転じたことなどにより、前年同期に比べ2.5%減少し、439億円となりました。

(右側のグラフ)

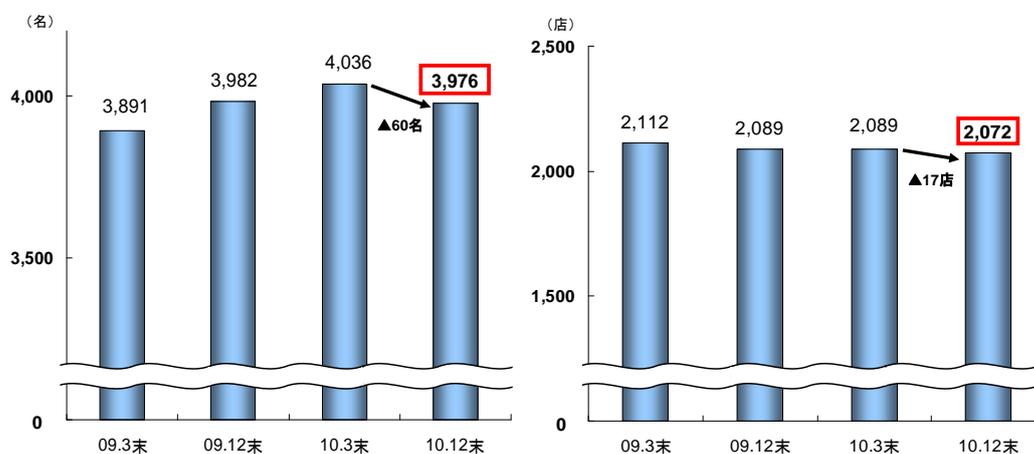
逆ざや額は、利息及び配当金等収入の増加にともない、前年同期に比べ54.9%減少し、55億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

(左側のグラフ)

ライフプランナー在籍数は、2010年3月末から60名減少し、3,976名となりました。これは主に、採用基準の厳格化にともなう採用数の減少、および退職者の増加などによるものです。

(右側のグラフ)

代理店数は、2010年3月末から17店減少し、2,072店となりました。

(次のスライドをご覧ください)

一般勘定資産の内訳

	10.3末		10.12末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	30,329	77.5%	34,043	80.8%
株式	725	1.9%	677	1.6%
外国公社債	499	1.3%	441	1.0%
外国株式等	253	0.6%	271	0.6%
金銭の信託	2,887	7.4%	2,800	6.6%
約款貸付	1,275	3.3%	1,325	3.1%
不動産	799	2.0%	772	1.8%
現預金・コールローン	1,164	3.0%	568	1.4%
その他	1,194	3.0%	1,211	2.9%
合計	39,129	100.0%	42,112	100.0%

※2009年度第2四半期から2010年度第2四半期まで、「金銭の信託」として運用されている有価証券を運用資産の分類ごとに合算した、一般勘定資産の実質ベースの内訳を開示してまいりました。しかし、転換社債、および「金銭の信託」に含まれる株式の2010年12月末時点における残高がゼロであることから、実質ベースの内訳から従前の内訳の開示へ戻します。なお、この運用資産の分類は、生命保険協会の定める開示基準に準拠しています。

(注) 有価証券の保有区分ごとの内訳は29ページを参照。

＜資産運用状況＞

■公社債：当第3四半期・・・超長期債購入継続

【債券のDuration】

09. 3末 13.6年

10. 3末 17.6年

10.12末 19.0年

■株式：2010年度は、2008年度に圧縮後の保有比率を維持

このスライドでは、前年度第2四半期から今年度第2四半期まで、「金銭の信託」として運用されている有価証券を運用資産の分類ごとに合算した、実質ベースの内訳を開示してまいりました。しかし、転換社債、および「金銭の信託」に含まれる株式の2010年12月末の残高がゼロであることから、従前の開示方法に戻しております。

2010年3月末と比較した、2010年12月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

超長期債への投資を推進したことから公社債の割合が高まり、2010年12月末で80.8%となりました。

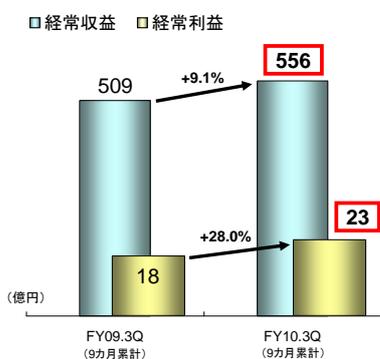
その結果、2010年12月末の債券のデュレーションは19.0年となっております。

金利リスク低減を目的に保有債券の入れ替え(超長期債券購入)を進めてまいりましたが、既存債券の入れ替えは今年度上半期で概ね完了し、金利変動による影響は限定的となりました。

今後も、新規資金の大半を超長期債に投資することで、引き続き金利リスクを抑制してまいります。

(次のスライドから、ソニー損保の業績についてご説明いたします)

ソニー損保 業績ハイライト



- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。
- ◆ 自動車保険における事故発生率の増加にともない正味損害率が上昇したものの、その影響は異常危険準備金繰入額の減少により緩和され、経常収益の増加と事業費率の低下により経常利益は増加。

(億円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	前年同期比	
経常収益	509	556	+46	+9.1%
保険引受収益	504	550	+45	+9.1%
資産運用収益	5	5	+0	+11.7%
経常費用	491	532	+41	+8.4%
保険引受費用	371	404	+32	+8.8%
資産運用費用	0	—	▲0	▲100.0%
営業費及び一般管理費	119	127	+8	+7.2%
経常利益	18	23	+5	+28.0%
四半期純利益	11	14	+2	+19.5%

(億円)	09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比	
責任準備金残高	570	581	632	+51	+8.9%
純資産額	150	154	169	+14	+9.3%
総資産額	947	983	1,043	+59	+6.1%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、前年同期に比べ**9.1%**増加し、**556億円**となりました。これは、主力の自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことによるものです。

損益面では、経常収益の増加と事業費率の低下により、経常利益は前年同期に比べ**28.0%**増加し**23億円**となりました。なお、自動車保険における事故発生率の上昇にともない正味損害率が上昇したものの、その影響は異常危険準備金繰入額の減少により緩和されておりま。

以上の結果、純利益は、前年同期に比べ**19.5%**増加し、**14億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保 主要業績指標

(億円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	前年同期比	
元受正味保険料	501	545	+8.9%	◆自動車保険の保有契約件数の増加により増加。
正味収入保険料	503	549	+9.1%	
正味支払保険金	253	293	+15.5%	◆自動車事故発生率の上昇の影響により増加。
保険引受利益	13	18	+33.4%	
正味損害率	56.3%	59.8%	+3.5pt	
正味事業費率	25.5%	25.0%	▲0.5pt	◆正味収入保険料の増加に対する事業費の増加が抑えられたことにより低下。
コンバインド・レシオ	81.8%	84.7%	+2.9pt	

(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

<主な増減要因>

	09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比		
保有契約件数	125万件	127万件	136万件	+8万件	+6.8%	◆自動車保険の保有契約件数の増加により増加。
ソルベンシー・マージン比率	1,031.7%	1,018.5%	1,010.8%	▲7.7pt		

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、ソニー損保の主要業績指標を記載しております。

次のスライド15には、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しておりますのでご覧ください。

続きまして、スライド16からソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	増減率
火 災	215	120	▲44.3%
海 上	—	—	—
傷 害*	5,187	5,339	+2.9%
自 動 車	44,731	49,136	+9.8%
自 賠 責	—	—	—
合計	50,133	54,596	+8.9%

正味収入保険料

(百万円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	増減率
火 災	9	5	▲43.0%
海 上	▲2	2	—
傷 害*	5,360	5,507	+2.7%
自 動 車	44,557	48,934	+9.8%
自 賠 責	468	543	+16.0%
合計	50,393	54,993	+9.1%

正味支払保険金

(百万円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	増減率
火 災	0	0	+172.4%
海 上	2	10	+371.6%
傷 害*	1,106	1,179	+6.5%
自 動 車	23,891	27,633	+15.7%
自 賠 責	399	502	+25.9%
合計	25,399	29,326	+15.5%

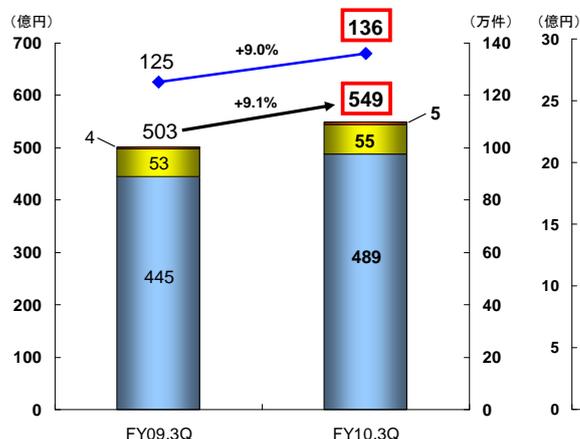
* 「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シュア)が含まれる。

※金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)

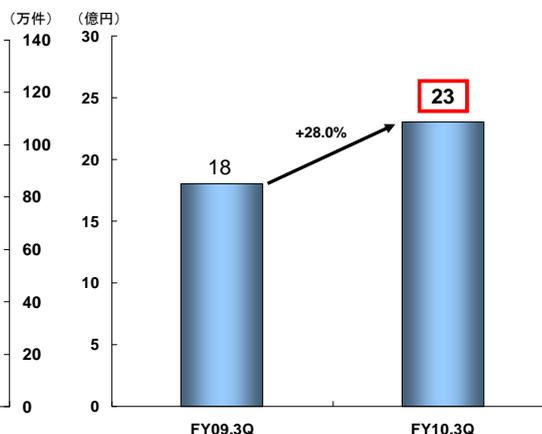
正味収入保険料と保有契約件数

■ 自動車保険 ■ 傷害保険 ■ その他
◆ 保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

経常利益 <9カ月累計>



※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

折れ線グラフで示しております保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で前年同期に比べ**9.0%**増加し、**136**万件となりました。

棒グラフで示しております正味収入保険料は前年同期に比べ**9.1%**増加し、**549**億円となりました。

(右側のグラフ)

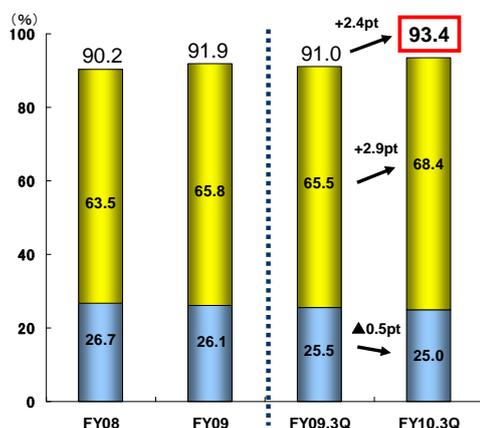
経常利益は、先のご説明のとおり、前年同期に比べて増加いたしました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保の業績(2)

正味事業費率+E.I.損害率

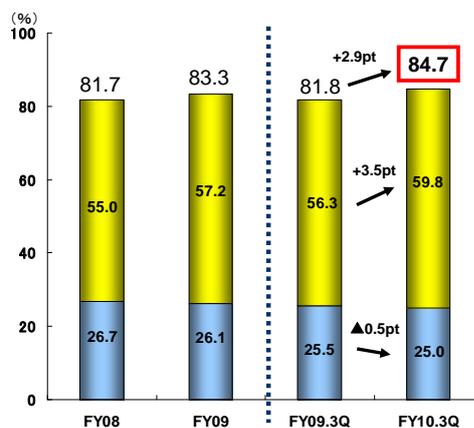
■正味事業費率 ■E.I.損害率



(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金繰入額+損害調査費)÷既経過保険料
[除く地震保険、自賠責保険]

<参考> コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)

■正味事業費率 ■正味損害率



(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、スライドで「E.I.損害率」と記載しております、損害率を発生ベースで表したアールド・インカード損害率についてご説明いたします。

E.I.損害率は、事故発生率の上昇などにより保険金支払いが増加し、前年同期に比べ2.9ポイント上昇し、68.4%となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加に対する事業費の増加が抑えられたことにより、前年同期に比べ0.5ポイント低下し、25.0%となりました。

(右側のグラフ)

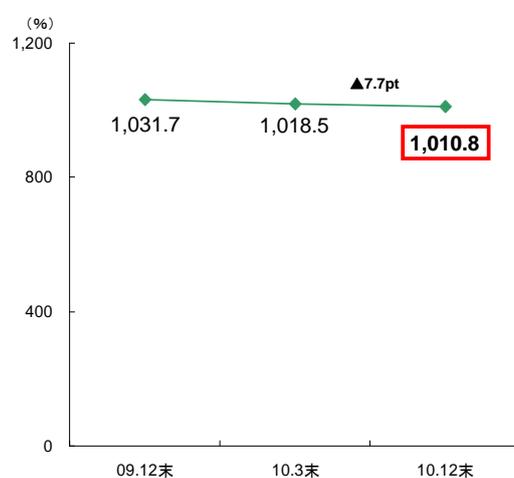
正味損害率は、前年同期に比べ3.5ポイント上昇し、59.8%となりましたが、これは前述のとおり、主に保険金支払いの増加によるものです。

なお、正味損害率は、支払備金繰入額などを反映していない点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ2.9ポイント上昇し、84.7%となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソルベンシー・マージン比率



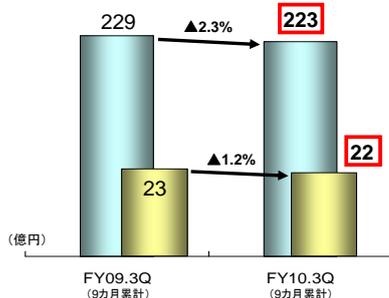
ソルベンシー・マージン比率は、
2010年3月末に比べ7.7ポイント低下し、1,010.8%となりましたが、
引き続き健全な水準を維持しております。

(次のスライドから、ソニー銀行の業績についてご説明いたします)

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益、経常利益ともに微減。
- ◆ 業務粗利益は、その他業務収支の増加により、前年同期比11億円増加。
【資金運用収支】住宅ローンなど貸出資産の増加により貸出金利息は順調に増加したものの、市場金利低下を受けた利ざやの縮小により3億円減少。
【その他業務収支】市場運用にかかる損益が改善したことから16億円増加。
- ◆ 業務純益は、業務粗利益が増加したものの、営業経費が前年同期比9億円増加したことから、ほぼ横ばい。
- ◆ 預かり資産残高は前年度末比1,015億円増加。うち預金残高は999億円の増加。

(億円)	FY09.3Q (9カ月累計)	FY10.3Q (9カ月累計)	前年同期比	
経常収益	229	223	▲5	▲2.3%
業務粗利益	110	121	+11	+10.2%
資金運用収支	99	95	▲3	▲3.6%
役員取引等収支	0	▲1	▲1	—
その他業務収支	11	27	+16	+147.4%
営業経費	85	94	+9	+10.8%
経常利益	23	22	▲0	▲1.2%
四半期純利益	13	12	▲1	▲8.2%
業務純益	24	24	▲0	▲0.5%

(億円)	09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比	
有価証券残高	7,832	8,801	9,523	+722	+8.2%
貸出金残高	5,626	5,866	6,810	+943	+16.1%
預金残高	14,427	15,100	16,099	+999	+6.6%
預かり資産残高	15,438	16,100	17,116	+1,015	+6.3%
純資産額	577	589	589	▲0	▲0.1%
その他有価証券評価差額金	1	9	7	▲1	▲11.9%
総資産額	15,622	16,121	17,363	+1,241	+7.7%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行単体の経常収益は、外国為替売買益の減少などにより、前年同期に比べ**2.3%**減少し、**223**億円となりました。

業務粗利益は、前年同期に比べ**10.2%**増加し、**121**億円となりました。これは主に、市場運用にかかる損益が改善し、その他業務収支が増加したことによるものです。

また、営業経費は、システム関連費用等の増加により、前年同期に比べ**10.8%**増加し、**94**億円となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同期に比べ**1.2%**減少し、**22**億円となりました。

純利益は、経常利益が減少したことにより前年同期に比べ**8.2%**減少し、**12**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)	09.12末	10.3末	10.12末	前年度末比	
預かり資産残高	15,438	16,100	17,116	+1,015	+6.3%
預金	14,427	15,100	16,099	+999	+6.6%
円預金	11,221	11,849	12,651	+801	+6.8%
外貨預金	3,206	3,250	3,448	+198	+6.1%
投資信託	1,010	1,000	1,016	+16	+1.6%
貸出金残高	5,626	5,866	6,810	+943	+16.1%
住宅ローン	5,444	5,551	6,214	+663	+11.9%
その他	182	315	596^{*1}	+280	+89.1%
口座数	76.9万件	79.6万件	84.0万件	+4.4万件	+5.5%
自己資本比率 (国内基準)^{*2}	13.04%	12.09%	11.25%	▲0.84pt	

<主な増減要因>

◆ 預かり資産残高は2010年3月末比1,015億円増加。外貨預金残高は、円高進行による円換算の影響があるものの198億円増加。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の順調な伸びに加え、シンジケートローンを中心とした法人向け貸出の増加により増加。

*1 うち517億円は法人向け

*2 24ページの自己資本比率(国内基準)の推移参照

※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY09.3Q (9か月累計)	FY10.3Q (9か月累計)	前年同期比	
業務粗利益	110	121	+11	+10.2%
資金収支 ^{*1} ①	100	110	+9	+9.5%
手数料等収支 ^{*2} ②	9	5	▲3	▲36.8%
その他収支 ^{*3}	0	5	+4	+905.9%
コアベース業務粗利益 (A) = ① + ②	110	116	+6	+5.6%
営業経費等 ③	86	97	+11	+13.2%
コアベース業務純益 = (A) - ③	24	18	▲5	▲21.6%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支 … 資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

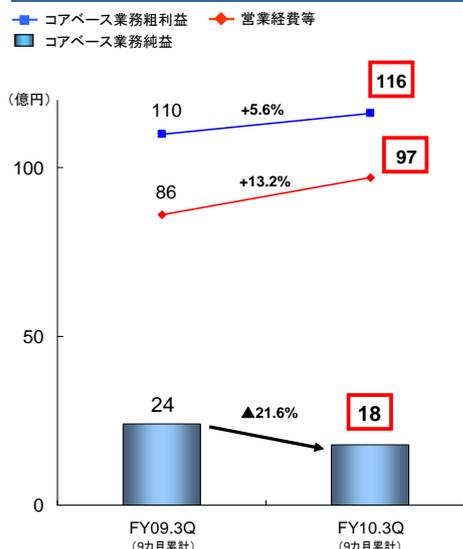
*2 手数料等収支 … 役員取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支 … その他業務収支から *1 と *2 の調整を控除したものの主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益) を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な収益を表すもの

<参考> コアベース業務粗利益、営業経費等、コアベース業務純益 <9か月累計>



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

21

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、住宅ローンを中心とした資産規模の拡大に加え、外貨預金にかかる市場運用損益の改善により、前年同期に比べ9億円増加の110億円となりました。

手数料等収支は、外国為替相場の動向を受けてお客さまとの外貨売買取引にかかる収益が減少したことなどにより、前年同期に比べ3億円減少し、5億円となりました。

その他収支においては、国債等売買損益の改善などにより、前年同期に比べ4億円増加の5億円となりました。

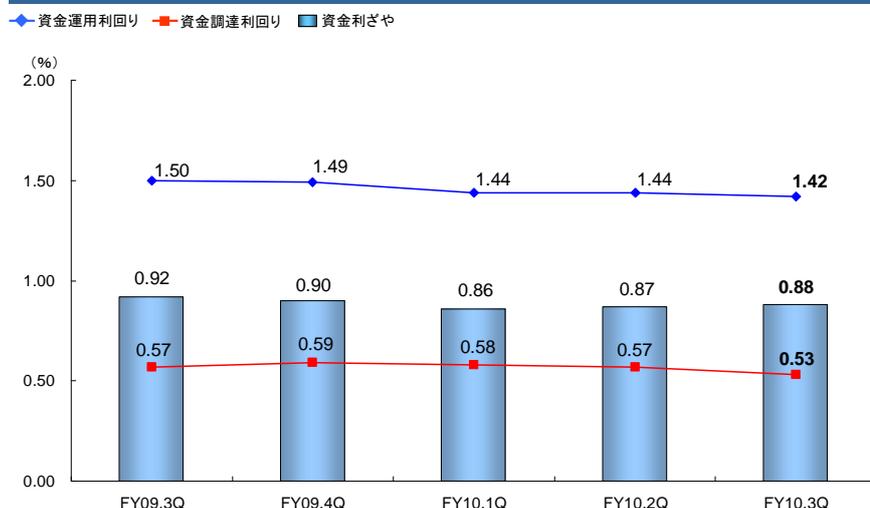
その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ6億円増加し、116億円となりました。

(右側のグラフ)

コアベース業務純益は、営業経費等の増加により、前年同期に比べ5億円減少し、18億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り
 資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれている。

社内管理ベースの資金利ざやについてご説明いたします。

世界的な低金利環境下において、
 青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、
 全体的に低下傾向で、今年度第3四半期では**1.42%**となりました。

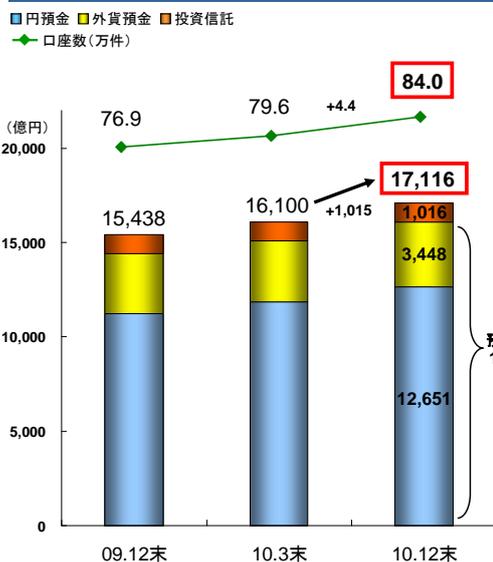
また、赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りも低下し、
0.53%となりました。

そのような中、棒グラフで示しております資金利ざやは、
 今年度に入ってから緩やかな改善傾向にあり、**0.88%**と一定水準を確保しました。

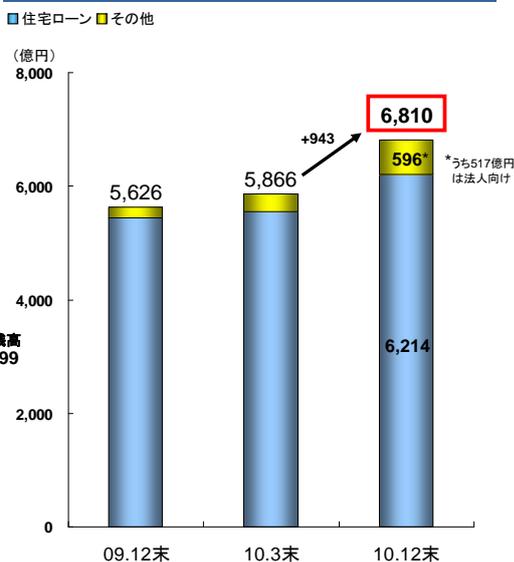
(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(2)

預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



貸出金残高



※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨てで表示

業容の推移についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、
2010年3月末に比べ1,015億円増加し、1兆7,116億円となりました。

預金残高は、2010年3月末に比べ999億円増加し、1兆6,099億円となりました。
このうち外貨預金の残高は、円換算の際に使用する為替レートが円高に大きく振れたものの、198億円の増加となりました。

投資信託の残高は、2010年3月末に比べ16億円増加し、1,016億円となりました。
また、口座数は4万4千件増加し、84万件となりました。

(右側のグラフ)

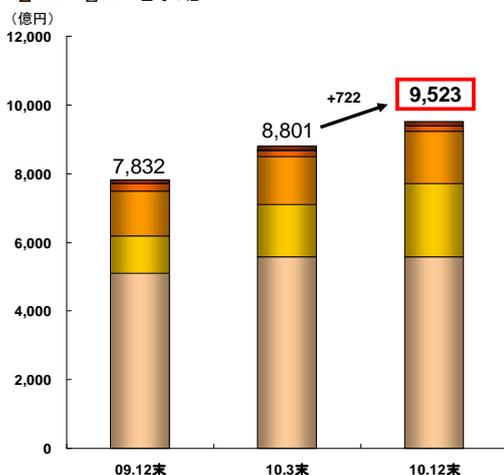
貸出金残高については、住宅ローンの順調な伸びと法人向け貸出の増加により、
2010年3月末に比べ943億円増加し、6,810億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

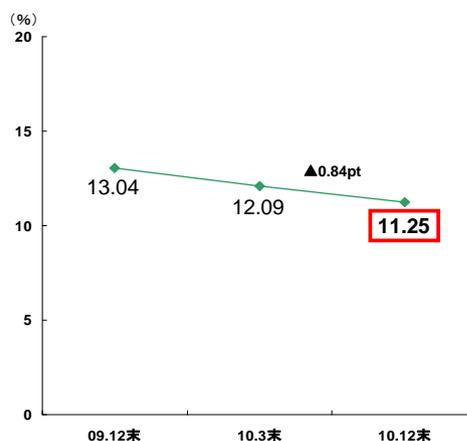
ソニー銀行の業績(3)

格付別の有価証券残高の推移

■ AAA ■ AA ■ A
■ BBB ■ BB ■ その他



自己資本比率(国内基準)の推移



(注) 平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。

※金額は億円未満切捨てで表示

(左側のグラフ)

2010年12月末の有価証券残高は、2010年3月末に比べ722億円増加し、9,523億円となりました。
引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2010年3月末に比べ0.84ポイント低下し、11.25%となりましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。

(次のスライドをご覧ください)

2010年度連結業績予想

(億円)	FY09 (実績)	FY10 (前回予想)	FY10 (今回予想)	増減率 FY09 vs 今回予想
連結経常収益	9,789	9,740	9,940	+1.5%
うち生命保険事業	8,820	8,713	8,909	+1.0%
うち損害保険事業	681	727	738	+8.3%
うち銀行事業	305	306	295	▲3.3%
連結経常利益	843	740	780	▲7.6%
うち生命保険事業	797	696	741	▲7.1%
うち損害保険事業	25	22	25	▲2.5%
うち銀行事業	19	28	22	+14.1%
連結当期純利益	481	400	420	▲12.7%

(注)1. 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示
2. 2010年5月13日に発表した通期予想を修正

■生命保険事業

責任準備金の繰入増加や事業費の増加などが見込まれるものの、第3四半期までの業績を踏まえ、経常収益および経常利益ともに前回予想から上方修正。

■損害保険事業

主力の自動車保険で正味収入保険料が想定を上回って推移したことにより、経常収益を前回予想から上方修正。損害率上昇の影響は異常危険準備金繰入額の減少で緩和されており、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、経常利益を前回予想から上方修正。

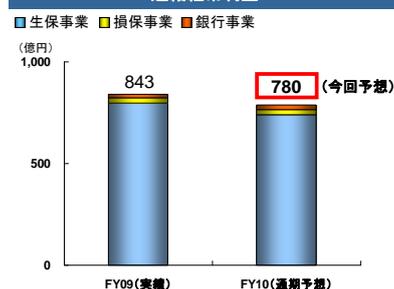
■銀行事業

預金および住宅ローンの順調な積み上がりにより業容は拡大したものの、金融市場環境の影響を受けた手数料収入の縮小などにより、経常収益および経常利益ともに前回予想から下方修正。

連結経常収益



連結経常利益



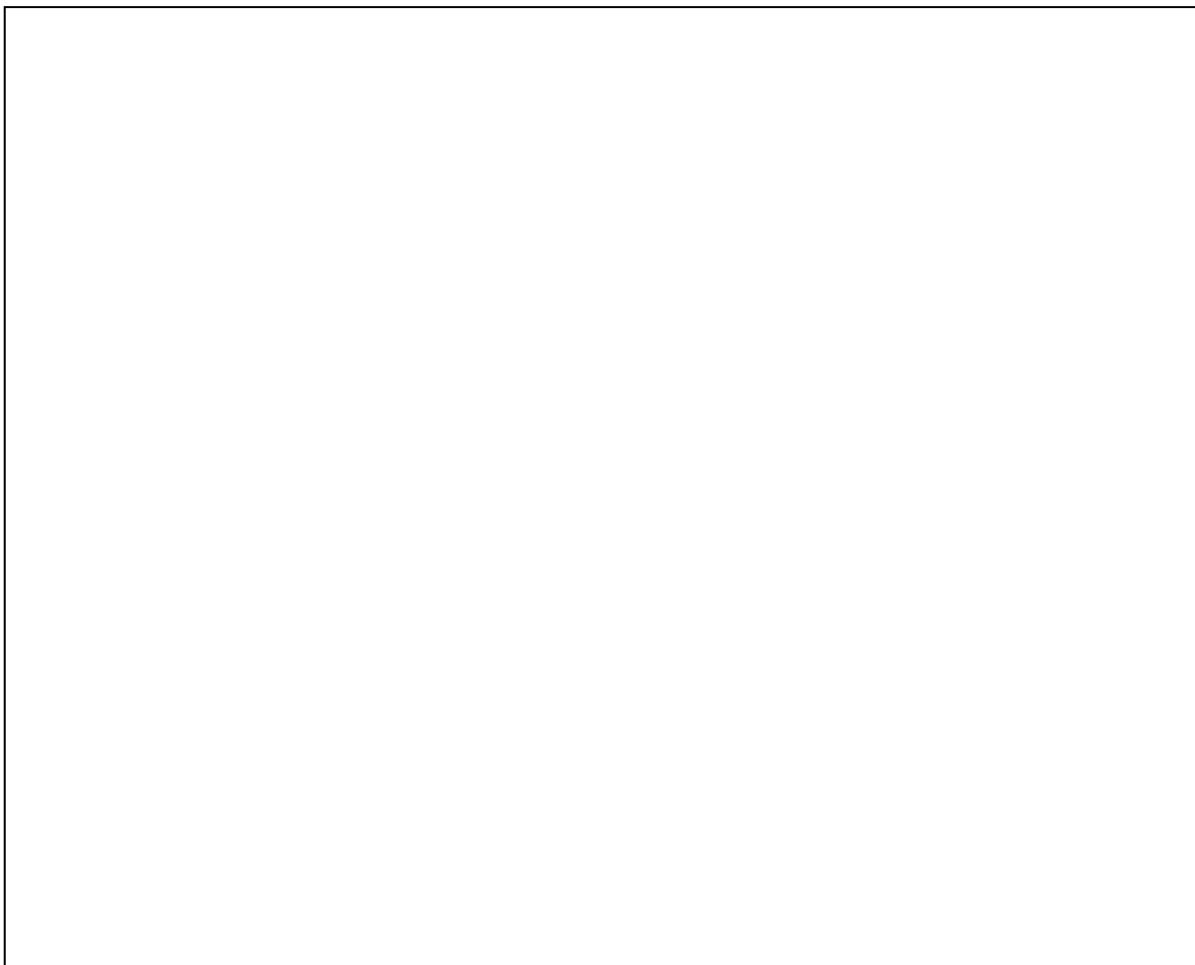
2010年度の連結業績予想についてご説明いたします。

今年度第3四半期までの実績を踏まえ、スライドに記載のとおり連結業績予想を上方修正いたしました。

以上で、ご説明を終わります。

ありがとうございました。

補足情報



ソニーライフ・エイゴン生命の営業状況

営業開始: 2009年12月1日

資本金: 200億円(資本準備金100億円を含む)

株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品: 変額個人年金保険(3種類5商品)

販売チャネル: ライフプランナーおよび銀行(6行*) *2011年2月14日現在

主要業績指標(2010年度第3四半期(9カ月累計)):
新契約件数:547件、新契約高:54億円(2010年12月末・・・保有契約件数:991件、保有契約高:116億円)



ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

■2010年度第3四半期(9カ月累計)の住宅ローン新規融資実行金額の29%

※銀行代理業務取扱い開始: 2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

■2010年度第3四半期(9カ月累計)の新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取扱い開始: 2001年5月



<2010年度第3四半期以降の主な取り組み>

- 2010年10月 4日 ソニー銀行、オークラヤ住宅㈱との提携住宅ローンを開始
- 2010年11月 2日 ソニー生命、新商品『終身介護保障保険(低解約返戻金型)・介護一時金特約』を発売
『逓減定期保険・逓減定期保険特約』への『優良体・非喫煙者割引特則』の適用開始
- 2010年11月 8日 ソニー銀行、投資信託の分配金受け取りサービスを開始
- 2010年11月29日 ソニー銀行、毎月分配型ファンド6本の取扱いを開始
- 2011年 1月17日 ソニーライフ・エイゴン生命、変額個人年金保険『キャッチポイント』(年金原資保証型2010)を、(株)三井住友銀行を通じて販売開始
- 2011年 1月24日 ソニー銀行、毎月分配型ファンド2本と、直販以外での取扱いは初となる『コモンズ30ファンド』を販売開始
- 2011年 2月 1日 ソニーライフ・エイゴン生命、変額個人年金保険『ダブルアカウント』(年金原資保証型2010)を、ソニー生命のライフプランナーを通じて販売開始
- 2011年 2月 1日 ソニー損保、保険料水準の見直し、契約距離区分追加などの自動車保険の改定を実施
- 2011年 2月 7日 ソニーライフ・エイゴン生命、変額個人年金保険『ダブルアカウント』(年金原資保証型2010)を、十六銀行を通じて販売開始

有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの (億円)

区分	09.12末			10.3末			10.6末			10.9末			10.12末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	20,074	19,995	▲79	22,756	22,551	▲204	24,779	26,286	1,507	28,186	30,402	2,216	28,692	29,847	1,155
その他の有価証券	13,059	13,582	523	11,265	11,669	404	10,399	10,978	580	8,588	9,139	550	8,909	9,330	420
公 社 債	12,168	12,620	452	10,615	10,900	284	9,738	10,303	565	7,948	8,485	536	8,249	8,599	350
(うち転換社債)	775	784	9	136	132	▲3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
株 式	516	581	65	517	621	104	519	532	12	518	529	11	517	574	56
外 国 証 券	323	316	▲7	80	80	▲0	20	20	0	-	-	-	19	18	▲1
その他の証券	51	63	12	51	67	15	119	121	2	121	123	1	123	138	14
合 計	33,134	33,578	443	34,021	34,221	199	35,178	37,265	2,087	36,775	39,541	2,766	37,592	39,178	1,586

売買目的有価証券の評価損益 (億円)

09.12末		10.3末		10.6末		10.9末		10.12末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
3	56	-	57	-	-	-	-	-	-

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金銭の信託」に含まれているものも含む。

※金額は億円未満切捨てて表示

ソニー生命の純資産(指標別)の明細



純資産(BS上)／実質資産負債差額／ソルベンシー・マージン

(億円)	①純資産(BS上)		②実質資産負債差額		③ソルベンシー・マージン		備考
	10.3末	10.12末	10.3末	10.12末	10.3末	10.12末	
株主資本合計	1,773	2,074	1,773	2,074	1,703	2,052	③社外流出予定額控除後
その他有価証券評価差額金	154	166	154	166	—	—	
その他有価証券の含み損益	—	—	—	—	330	345	③税引前の90%
土地再評価差額金	▲14	▲14	▲14	▲14	—	—	
価格変動準備金	—	—	96	149	96	149	
危険準備金	—	—	484	510	484	510	
一般貸倒引当金	—	—	—	—	0	0	
土地の含み損益	—	—	26	30	16	19	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期チルメル式責任準備金 相当額超過額	—	—	3,165	3,262	3,165	3,262	
配当準備金未割当部分	—	—	23	36	23	36	
将来利益	—	—	—	—	10	10	
税効果相当額	—	—	—	—	472	683	
満期保有債券の含み損益	—	—	▲204	1,165	—	—	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債	—	—	128	136	—	—	
合計	1,913	2,226	5,634	7,517	6,302	7,069	

(注)「②実質資産負債差額」において、満期保有・責任準備金対応債券の含み損益を含まない場合の合計値は、10.3末:5,838億円、10.12末:6,352億円。

※金額は億円未満切捨てて表示

ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移



(億円)					
項 目	09.12末	10.3末	10.6末	10.9末	10.12末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	6,256	6,302	6,666	6,995	7,069
資本金等	1,633	1,703	1,799	1,979	2,052
備格変動準備金	79	96	112	130	149
危険準備金	478	484	492	501	510
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0
その他有価証券の評価差額×90% (マイナスの場合100%)	430	330	484	460	345
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%)	48	16	16	16	19
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	3,128	3,165	3,193	3,228	3,262
配当準備金未割当部分	17	23	27	31	36
持来利益	-	10	10	10	10
税効果相当額	440	472	529	636	683
負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-
控除項目	-	-	-	-	-
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	486	477	474	467	475
保険リスク相当額 R1	190	191	194	196	198
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	71	70	71	72	73
予定利率リスク相当額 R2	113	113	114	114	115
資産運用リスク相当額 R3	202	189	179	166	171
経営管理リスク相当額 R4	13	12	12	12	12
最低保証リスク相当額 R7	78	80	83	86	88
ソルベンシー・マージン比率 (A)/(1/2×(B))×100	2,570.9%	2,637.3%	2,810.0%	2,992.8%	2,971.9%

※金額は億円未満切捨てて表示



お問い合わせ先：
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL:03-5785-1074

免責事項：

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見直しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。